

---

# 残酷な彼氏

神童サーガ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

残酷な彼氏

### 【Nコード】

N4465F

### 【作者名】

神童サーガ

### 【あらすじ】

人の心を読めてしまう女の子と、いきなり変な能力を貰った少年の話。微妙に恋愛です

「暇ー」

女の子の朔耶<sup>サクヤ</sup>の前にいるのは幼馴染みで、彼氏の総一<sup>ソウイチ</sup>です。

先ほど喋ったのは、総一です。

性格は、マイペースでゆったり。

容姿は、女顔に童顔にチビというカツラさえ被れば、女の子に見える男としては可哀相な子。

そして朔耶の性格は、ポヤーっとしてるけど強がり。

容姿は、少年っぽい感じだけど、髪はツインテール。だけど、総一の性格に偽りアリです。

「（ダルいなあ、さっさと授業なんか潰れろ）」

クールで中身は黒いです。

「また変な事考えないの」

朔耶は、特殊能力があり、それは心を読むこと。自然と読んでしまう。小さい頃から、そうだったため、総一以外に言ったことは無かった。

「（読むんじゃねーよ）」

二重人格と言った方が分りやすいような気がする。  
表面と裏面の気性が激しい。

「あれ・・・？」

「何だろうね？」

のんびりとした声だが、緊迫した表情。  
なにがあつたかというと、教室にいたはずの二人は、真つ暗闇に  
包まれてる。

「これぞ異空間？」

「呑気だよ総一・・・どうすんの？」

今までの現状なんか吹っ飛ばされた。  
知識なんて皆無に等しい。

「眠いね？」

「・・・総一」

「なに？」

朔耶の焦った声に、言葉遣いが変わった。  
表面なんて関係が無くなった。

「誰だ？」

白い男の子が現れた。何年も引き籠もってるような白い肌に、汚れが無い白いＴシャツだった。

「けっこう美少年・・・」

148センチ位の身長に、つぶらな瞳、ワソコのように可愛らしい。

『女・・・その能力に疑問を感じないか？』

「え・・・うん・・・思ってた」

さっきまで笑顔だったのに、表情が変わった。

『その能力は・・・神から授けられた物なのだ』

子供らしからぬ言葉遣いに驚いたが、総一は気にせずにした。

「ふざけてんの？」

『男・・・お前にもある』

男の子の言葉にショックを隠せない二人。

「そんなものねーよ」

『人形遊びしたことは？』

何度驚けば良いのだろうか。

「するわけねーよ」

『なら、この人形を使ってみて』

総一に渡したのは、どつかの悪面の男だった。

総一は、人形の手を動かした。

すると、いつの間にかあった巨大スクリーンに映ってた男は、道

端で手を上げた。

「へえ・・・面白いじゃん」

「他にもあるの？」

青ざめて言った朔耶に男の子は言った。

『男が・・・願ったものに人形が変身する』

「・・・ふうん。じゃあ朔耶にもか」

にやついた総一に泣きそうにしてる朔耶。

「いや・・・」

「最近、強がつてるけどさ・・・そんなに僕って頼りない？一から調教しなきゃね」

嫌がつてるの朔耶に、近付く総一。  
手には朔耶の人形がある。

「・・・洋服はぎ取れば脱げるかな？」

「え・・・」

顔を真つ赤にして逃げ回る朔耶。

『男・・・なんのために使う？』

「それは・・・」

総一は、なぜか言わなかった。  
人形は元の藁人形に戻った。

「やっぱ、苛めるためだよ」

『好きな者を傷付けるのが嬉しいか？ずっと守ると誓ったのに』

何で知ってんだよ、と怒鳴り上げる総一。

朔耶は離れてたために聞いて無い。

『それを・・・どうするか・・・男次第だ』

言うだけ言って消えた男の子。

また光に包まれ、気が付くと教室に戻ってた。



「朔耶・・・？」

ただ、朔耶がいなかった。  
それ以外は、何も変わらない。

「おいっ！！」

先生の叫びが聞こえたが無視した。

「くそっ・・・どこに行ったんだ？」

近所から自宅まで探したが、見つからなかった。

「どこなんだよ」

見つからないせいか、弱音を吐いてる総一。

「ちっ・・・人形じゃ探せないし・・・ん？」

人形を見ると、ポケットが震えた。取り出すとケータイだった。画面には、朔耶という字があった。

「もしも・・・」

『たす・・・けて・・・総一』

弱々しい声に、目を見開いた。

「朔耶？」

『なんか・・・倉庫が・・・寒い』

朔耶の言葉を必死に考える。

『海の匂い・・・だけど真っ暗』

近くに海がある倉庫を必死に考えた。

「たしか・・・海の近くに巨大冷蔵庫があつたよな？魚を保存させ

るために・・・」

考え着いた途端に走っていた。

「この女どうする？」

「テレビ局に売り込まねーか？こんな能力は大金になる」

朔耶の周りには厳つい奴等がいた。

朔耶は、縄で巻かれて動けない。

心で思っていることと言っていることが同じだから怖さが倍増。

「その前に遊ぶか？」

「！？」

「くくっ・・・泣いた顔も良いじゃねーか」

男は、朔耶に馬乗りになり衣服を脱がそうとする。

朔耶は、もがくが男の邪な心を読み苦痛を感じた。

朔耶の声にならない叫びがした途端に、男は苦しみだした。

「え・・・？」

右肩を押さえる男。どうやら折れたようだ。

理由は、総一だろう。人形を使った。

ブチブチと醜い音がした。男の一人の髪が抜けて、ハゲになった。

「・・・大丈夫か？」

「総一！！」

朔耶の縄を外した総一。怖かったのか総一に抱き付いて離れない。

「朔耶・・・大丈夫・・・もう大丈夫だからな」

優しく頭を撫でる総一。疲れたのか意識が途切れた朔耶。

「本当は・・・もっとボコボコにしたいけど、朔耶を休ませなきゃいけないし」

まだイライラが消えて無かった様子だけど、冷たい目で残骸とな

った奴等を見る。

朔耶を抱える前に、ソツと口付けをしてから家に帰った。

「朔耶に触れるなんて許さない・・・人形を使ってぶっ飛ばしてやる」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4465f/>

---

残酷な彼氏

2010年10月12日03時32分発行